



平成21年度優秀映画鑑賞推進事業

名作映画 上映会

平成22年
とき **1月23日(土)・24日(日)**
ところ **大村市民会館**
(JR大村駅 徒歩3分)

キューポラのある街

(1962年 日活 白黒 シネマスコープ 99分) 【監督】 浦山桐郎

出演：吉永小百合、浜田光夫、東野英治郎、杉山徳子

23日(土) 10時 **24日(日) 14時30分**



けんかえれじい

(1966年 日活 白黒 シネマスコープ 86分) 【監督】 鈴木清順

出演：高橋英樹、浅野順子、川津祐介、松尾嘉代

23日(土) 12時 **24日(日) 16時30分**



八月の濡れた砂

(1971年 日活 カラー シネマスコープ 91分) 【監督】 藤田敏八

出演：村野武範、広瀬昌助、中沢治夫、隅田和世

23日(土) 16時30分 **24日(日) 12時**



伊豆の踊子

【監督】 西河克己

(1974年 東宝映画=ホリプロ カラー シネマスコープ 82分)

出演：山口百恵、三浦友和、中山仁、佐藤友美

23日(土) 14時30分 **24日(日) 10時**

当時の映画ポスター展示 懐かしい昭和の香りをお楽しみください。

【料金】

	一般	会員
前売 1回券	500円	400円
前売 4回セット券	1,500円	1,300円
当日 1回券	800円	400円

プレイガイド

©主催/ (財)大村市振興公社、文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター
 ©協力/コミュニティシネマ支援センター、長崎県興行生活衛生同業組合、大村市中央商店街、大村市カード事業協同組合、よい映画を観る大村市民の会

問合せ/シーハットおおむら事業部 TEL0957-20-7207

シーハットおおむら、大村市民会館、大村市立図書館、中地区公民館、郡地区公民館、大村浜屋、まちかど研究室、ミュージックスホンダ、ジャスコ大村店、諫早文化会館、東彼杵町総合会館教育センター、(有)長崎書店、ローソンチケット(Lコード84514)、チケットぴあ(Pコード461-145)



ウインクカードのポイントで鑑賞券と交換できます。

500点
鑑賞券:1枚

700点
鑑賞券:2枚

1,200点
4回セット券:1枚

問合せ/ウインクカード事務局 TEL0957-54-1685



上映スケジュール

時間	上映時刻	1月23日(土)	上映時刻	1月24日(日)
10時	10時 上映	キューポラのある街 (99分)	10時 上映	伊豆の踊子 (82分)
11時	11時39分 終了		11時22分 終了	
		休憩 (21分間)		休憩 (38分間)
12時	12時 上映	けんかえれじい (86分)	12時 上映	八月の濡れた砂 (91分)
13時	13時26分 終了		13時31分 終了	
		休憩 (64分間)		休憩 (59分間)
14時	14時30分 上映	伊豆の踊子 (82分)	14時30分 上映	キューポラのある街 (99分)
15時	15時52分 終了		16時 9分 終了	
		休憩 (38分間)		休憩 (21分間)
16時	16時30分 上映	八月の濡れた砂 (91分)	16時30分 上映	けんかえれじい (86分)
17時	17時56分 終了		17時56分 終了	
18時	18時 1分 終了			

純情と獰猛さが入り混じった青春の一瞬を、気鋭の監督たちが鮮やかに捉えた青春映画の秀作を、紹介いたします。

キューポラのある街

【監督】 浦山桐郎

(1962年 日活 白黒 シネマスコープ 99分)

出演

吉永小百合、浜田光夫、東野英治郎、杉山徳子 ほか



石原裕次郎や小林旭などのスターを配したアクション映画が全盛だった日活に、もう一つの流れとして生まれたのがリアリズムを基調とした青春映画である。その路線を象徴するコンビが吉永小百合と浜田光夫で、この映画の他にも『愛と死をみつめて』(1964)などで主演している。

伊豆の踊子

【監督】 西河克己

(1974年 東宝映画=ホリプロ カラー シネマスコープ 82分)

出演

山口百恵、三浦友和、中山仁、佐藤友美 ほか



青春小説の名作として知られる川端康成の同名作の映画化。田中絹代と大日方伝が主演した、五所平之助監督の松竹作品(1933)を第1回として、これまでに全部で6回映画化されている。踊り子を演じたのは、美空ひばり、鰐淵晴子、吉永小百合、内藤洋子らで、いずれもその時代の青春スターであった。

けんかえれじい

【監督】 鈴木清順

(1966年 日活 白黒 シネマスコープ 86分)

出演

高橋英樹、浅野順子、川津祐介、松尾嘉代 ほか



昭和初期、岡山から会津若松に移り住んだ暴れ者の硬派学生が、喧嘩に明け暮れながらも成長してゆく様子を活写したおおらかな青春映画。若き高橋英樹が主人公を熱演しているが、爽快なアクションや乾いたユーモアの中に、ふと恋愛感情を覚えた主人公を通して豊かな叙情性が表現されている。

八月の濡れた砂

【監督】 藤田敏八

(1971年 日活 カラー シネマスコープ 91分)

出演

村野武範、広瀬昌助、中沢治夫、隅田和世 ほか



揺れ動く若者の行動と心理を硬質なタッチで瑞々しく描いた青春映画の名作であり、藤田敏八監督の初期の代表作である。主人公たちの〈大人〉に対する不信と反抗の姿勢は、この種の映画に特有なものであると同時に、学生運動などで大きく揺れ動いた1960年代後半の時代の気分を色濃く宿したものと言えるだろう。